

青研かわらばん

発行所 長岡鉄工業青年研究会

発行責任者 原 雅 宏

編集責任者 加 納 孝 樹

編集者 小 林 史 幸

青 柳 光 芳・安 藤 学

大 竹 啓 之・佐 藤 康 一

杉 田 健・高 橋 大 輔

中 條 秀 樹・皆 川 政 男

事務局

新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号

長岡商工会議所ビル5F

長岡鉄工業協同組合内

長岡鉄工業青年研究会
TEL 0258-36-6982
(株)北都 長岡市堀金1丁目3番23号

新年度をむかえて

長岡鉄工業青年研究会
平成二十二年度会長

川 口 秀 和



一雨ごとに暖かさがまして、いよいよ平成二十一年度も終わりを迎え、新しく平成二十二年度を迎えることになりました。

この度、長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました。株式会社科学計器研究所の川口秀和です。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。私ごとで恐縮ではございますが、私は本年度で三十九歳を迎えることになります。偶然にも、当研究会も本年で三十九周年ということ、まさに私と鉄工青研は同い年と言えます。考えてみますと、私の今までの人生と同じ位、続いている本会というのには非常に歴史がある会であることが痛切に感じられます。

この歴史のある、長岡鉄工業青年研究会の会長を務めさせて頂くことに、また、歴代の諸先輩方の後を任されることになり、改めて責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

また、これまで当会が継続してきましたのは関係諸機関の皆様、OB会員の皆様、そして会員一人ひとりの御協力の賜物と感謝申し上げます。

現在の当研究会の会員数は五十八名、メンバーは長岡地域及び近郊の鉄工業に携わる企業の後継者や経営幹部となる若手で構成されております。会員各自はそ

れぞれの企業の将来を見据え日々、精進、努力を続けております。

当研究会の目的は「会員の相互扶助の精神に基づき、相互間の親睦、情報交換、技術の向上等会員のために必要な共同研究を行い、長岡鉄工業の発展に寄与すること」です。当会が会員各自の益々の精進、努力のための場、また、長岡鉄工業の発展になお一層寄与できるように本年度も精一杯頑張っていく所存であります。

さて、現在我々を取り巻く日本及び世界経済の状況は一昨年より続く、リーマンショック以降、百年に一度度言われる不況のさなかでございます。世界的に見れば、中国をはじめとして、新興国、アジアの回復は顕著ではありますが、もう一つ先が見えない状況が続いているのが現状ではないかと思えます。また、そのような状況下、日本国内での、ものづくりの空洞化が進んでしまうのではないのか危惧しているところであります。

そのような状況も踏まえ、本年度、当研究会では次のような事業を行っていきたいと思えます。

一、人材育成事業

研修事業は当研究会の核の事業の一つです。本年度は、マーケティングやプレゼンテーションといった営業的な講演会、セミナーを行いたいと思っております。現会員の多くは現状では鉄と向かい合う方が多かったりと、実際には現場作業が多かったりすると思えますが、近い将来は営業も兼任されていくことが予想されます。そこに視点を置き、顧客の新規開拓等、営業戦略に関する研修事業を行います。また、親睦、情報交換、技術の向上を目的とし先進地視察事業も行い、会員

の見聞を深めたいと考えております。

また、本年度も我々の次の世代を担う子供達にもものづくりの楽しさを体験し、学んでいただくために「ものづくり体験教室」を継続して行います。同事業を通じて長岡鉄工業の発展に寄与できれ

二、地域貢献・交流事業

長岡地域において、特にものづくりに関わる様々な団体と交流、親睦をはかり情報交換や技術の向上に繋げたいと考えております。

また、地域貢献事業として、OBの皆様、会員企業の多大な御協力で行われております。「屑鉄集め」を継続実施してまいります。その際にはまた、御協力をお願い申し上げます。

八月一日には長岡まつりに鉄工青研オリジナル神輿・纏で神輿渡御に参加いたします。業界内のみならず、長岡市民の皆様が会員が一致団結し「鉄工青研ここにあり」を示してまいります。

三、健康増進事業

各企業の経営を担う者として健康はかけがえないものです。健康でなければ家庭においてはもちろん、仕事においても重大な悪影響が出てくると思えます。本年度限定？の新たな試みですが、会員各位の健康の大切さを考え、親睦を深める事業を行いたいと思っております。

一年間、以上の事業を中心に、当研究会の運営を行ってまいります。会員の皆様には、各事業に積極的に参加され一つでも多くの事を得ることができれば良いと思います。一年間、御協力を宜しくお願ひ申し上げます。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十一年度会長 原 雅宏



一年間会長を務めさせて頂き、私自身さまざまな経験をさせていただきました。総会にて会長の承認をいただいた時に、

「学ぶ」というスローガンを掲げ、青研活動を学びの場として活用してもらい、各企業および今後の青研活動に生かしていただきたとお話させていただきました。一年前の今頃は百年に一度と言われる不況の始まりでした。そのような中で、少しでも会員の為、各企業の為になる事業を行いたいと考えた自分がいたことを思い出します。少しなりとも皆さんの為になったかどうか……。

青研は皆同じ鉄工業という業種の中にある企業の代表者の集まりです。似たような立場の人間の集まりだからこそ、色々な話ができて、知識を得ることができ。また話し方や企画、仲間作りまで……。

これから皆さんが各企業のトップとして活躍していく上で、本当によい経験を積める場だと思います。自分自身も会員として携わってきた中で得たこと……：会長をやらせて頂いた中で得たこと……：色々あります。皆さんにも必ず得るものがある会だと思っています。会員の皆様には青研の各事業に積極的に参加していただきたいと思います。平成二十二年度は川口会長の下、鉄工青研はさらなる活躍をするものと思っております。私自身も微力ながら、皆さんと共に青研の各事業を盛りたてていきたいと思っております。

最後になりましたが、関係行政機関の皆様、OB会員の皆様、ならびに会員の皆様、ご協力本当にありがとうございます。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 加納 孝樹

今年度の総務委員会では、例年通り卒業式に始まり、納涼会、忘年会、臨時総会・新年会、そしてこのかわらばんの配布される総会と四つの事業を柱に活動を行いました。季節の節目ごとの事業において、本当に大勢の会員から参加して頂きましてありがとうございました。また、毎月の役員会・委員会の設営や総会資料作成等、総務委員会として青研の運営サポートを行ってまいりました。それから写真つきの会員名簿をメール配信という形で発行しました。会員相互のコミュニケーションに役立てて頂けたらと思っています。

委員長としての反省点としては、毎月の役員会の議事進行を時間内に収める事が出来なかった事があります。委員会に出席する会員の皆様をお待たせしてしまつた事、この場を借りてお詫び申し上げます。また、総務委員の皆様には的確な指示が出来ず、なにかと戸惑わせてしまった感もあります。大変申し訳ありませんでした。こうした反省点を次年度以降にしっかりと引継ぎたいと思っております。

反省点を挙げればきりがありませんが、有意義な一年を過ごせましたのも、会長、副会長、委員の皆さん、会員の皆様の協力のおかげです。これからも青研ラブの気持ち忘れずに行きたいと思っております。本当に一年間ありがとうございました。

卒業式

平成二十一年四月十一日 かも川別館にて第三十七回総会に引き続き、平成二十一年度の幕開けの事業となる卒業式と懇親会が行われました。卒業式は厳かにとりおこなわれ、卒業生から心に残る言葉を残して頂き、改めて鉄工青研の良さを認識する事が出来ました。また、懇親会では、卒業生との思い出話やそれぞれの交流に花が咲き、大変盛り上がりしました。恒例の胴上げも無事に終了し、熱い気持ちで卒業生を送り出すことが出来ました。

参加者 六十二名 (加納 孝樹)

納涼会

平成二十一年八月二十八日 魚魚や本店にて納涼会を行いました。例年にくらべ若干肌寒い夜でしたが、多数の方に参加していただき、大変盛り上がりしました。経済不況、新型インフルエンザなど悪いニュースばかりですが、今後の活力源になる有意義な時間が過ごせたかと思っています。

参加者 三十四名

(青柳 光芳、安藤 学)

忘年会

平成二十一年十二月十六日 七福にて忘年会を行いました。去年から続く不景気の中、今年も本当に多数の方に出席して頂きありがとうございました。盛大に盛り上がり非常に有意義な時間を過ごしました。不景気の疲れを癒されたかと思えます。来年もまた、このような忘年会が行われる事を願っております。

参加者 四十名 (大竹 啓之)

臨時総会・新年会

平成二十二年二月五日グランドホテルにて臨時総会・新年会を行いました。臨時総会では、次年度会長、副会長および各役員の選出が行われ、無事承認されました。今回、女性会員についての話しもあり、有意義な総会でした。



参加者 七十六名 (小林 史幸)

第三十八回定期総会

平成二十二年四月九日 かも川別館にて行います。

研修委員会

委員長 小西 統之

今年度の研修委員会では、五つの事業を行いました。本年度三回に渡って行い、「財務諸表の見方を基礎から学んだ」、財務セミナー「チャレンジすることによってチャレンスを学ぶ」ことを学んだ、講演会「視点を変えると見えてくるものが変わってくる」をテーマにご講演いただいた、鋳物青研合同セミナー「他地域のものづくり」

くり団体がどのような活動をしているのか」が垣間見えた研修旅行。「今後の経済状況、我々中小企業が今後何をなすべきなのか」の指針を示していただいた、セミナーなど、年間を通してさまざまな事業を行わせていただきました。参加された皆様には、心よりお礼を申し上げます。

事業を開催するに当たり、「会員の皆様が参加したくなるような事業を行う」をモットーに運営してまいりました。会長、副会長、研修委員の皆様のご協力の下、無事に勤め上げることができました。一年間を通して研修事業に携わらせていただいた、普段の業務とは違ったことをさせていただき、誠に感謝しております。今後の活動の糧とすべく、取り組んでいきたいと思っております。一年間ありがとうございました。

◆財務セミナー

平成二十一年五月二十七日、六月四日、六月十二日の三度に渡り、コマスマーケティンク(株)社長、今井進太郎様より、「財務セミナー」をタイトルとして、铸件青年研究会と合同で、セミナーを行いました。財務三表を中心に公演いただき、難しくわかりにくいところも、例題等をうまく利用され、非常にわかりやすく説明を頂きました。最終日には、懇親会を用意し、私をふくめて青研会員とも、楽しいひと時をすごしました。

最後に、お忙しい中、今回参加していただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

◆講演会

平成二十一年七月二十四日、グランドホテルにて参加者二十九名で講演会を開

催しました。

元NFL/NBAチアリーダーの柳下容子様に講師をお願いして『ミラクル・スマイル』をテーマに話をして頂きました。チャレンジを続ける事の大切さ、挫折をして落ち込んでる時こそ笑顔でいる事の素晴らしさなどをみっちり喋っていただきました。

不景気の真只中にいる為どうしても表情が暗くなり、会話の中身も暗い話題ばかりで落ち込みがちですが、これからは良い笑顔を振りまいて周りを明るくしていこうと前向きになれる講演会でした。

参加者 講演会 二十九名
懇親会 二十三名

(矢尾板 隆)

◆铸件青研合同セミナー

平成二十一年十月十六日に中越铸件青年研究会様との合同講演会が行われました。講師には、「自分が源泉を文化にする」というビジョンを掲げ、数多くの講演会やコンサルティングを行われているシナジースペース株式会社代表取締役 鈴木博様にお越し戴きました。

「自分が源泉」「お客様本位」の二つを演題に、経営者、ビジネスリーダーとしてどの様なスタンスで挑むことが望ましいのかを、ディスカッションや講師様御自身の体験談、これまでに受講なされた方のエピソード等を交え御講義戴きました。終始、興味深い講義内容で、ご教示戴いた「自分が源泉」という考え方はすぐにでも、実生活や業務の中で生かしていくことができるのではないかと思います。

また、講義後に行われた懇親会では講師様にも御参加を戴きました。当懇親会を通じて、講師様より貴重な御話をお伺いすることや、中越铸件青年研究会様と

の更なる親睦を深めることができ、収穫の多い一日となったのではないかと思います。

参加者 講演会 二十二名
懇親会 十八名

(永井 邦幸)

◆研修旅行

本年度の研修旅行は、異業種の相互の協力により行われたものづくりの事例を見学することを目的に、埼玉県川口市の川口オリジナルバイク製作委員会様を訪問致しました。川口オリジナルバイク製作委員会は、川口商工会議所により、様々な業種から有志のある企業を募って組織された団体です。当日は、これまでに製作したトライク二台(改造)とHondaエコノパワー燃費競技会に参加した車両(オリジナル)を実際に見せて頂き、その製作経緯、各パーツの工夫や製法などを委員会の代表である(株)ツジインダストリー代表取締役 辻井様より細かく御解説頂きました。辻井様の御解説を通じて、技術的な面はもとより、その事業を会員のみならず、関わる人みんなで楽しもうとしている姿勢が今後の鉄工青研のものづくり活動や各々の事業活動にも大変参考になったのではないかと思います。

二日目は鉄道博物館を訪れました。参加者は童心に帰りながら興味深く当博物館に展示された日本のものづくりの歴史の片鱗を見学致しました。また、移



動の車中、親睦会場でも終始大変活気に溢れ、会員相互の更なる親睦も図れたのではないかと思います。

最後に皆様の御協力を賜りまして大変意義のある研修旅行となりました事を深く感謝申し上げます。有り難う御座居ました。

参加者 十二名 (永井 邦幸)

◆経営セミナー

「次世代につながるモノづくり、人づくり」と題しまして、山形大学教授、柴田孝氏をお迎えして経営セミナーを開催いたしました。

講師の開発設計者、経営者としての豊富な経験談に加え、最新の中国製造業の状況を解説していただきました。それらを踏まえ、将来の日本のものづくりについて、ビジネス・ネットワーク・オフイス副代表の立場から山形、宮城、新潟との地域連携の可能性・必要性についても言及されました。またセミナー後半には、参加者全員と活発な意見交換、アドバイスをいただき、予定時間を大幅にオーバーするほど熱の入ったものとなりました。

柴田氏より「3時間ではとても話つくせない」参加者よりは「もっと話をさせていたかったかった」という感想もあり、研修委員会としては、時間設定・開催回数等の不備を反省しつつも、有意義なセミナーであったと感じております。

参加者 十二名 (佐藤 大樹)



実行委員会

委員長 松田 勇介

今年度の実行委員会は、例年通り四つの事業を行いました。まずは、卒業生追出しゴルフコンペから始まりました。鉄工青研の中で卒業生が最後に参加する事業なので、卒業生が思い切り楽しんでもらえるよう企画しました。七月のリフレッシュイベントでは鋳物青研との合同親睦会として鉄工・鋳物両青研混合のボーリング大会を実施しました。鋳物青研と今までも親睦会を行っていますが、より一層親睦を深めることができたと思います。九月には屑鉄集めを実施し、集まった資金より十二月に福祉施設様へクリスマスプレゼントとして贈呈しました。大不況の中、屑鉄を提供してくださった企業様には大変感謝しております。贈呈式での福祉施設の方々笑顔が今でも思い出されます。十月は鉄工青研OBとの交流ゴルフコンペを行いました。普段なかなか接することのできないOBの方々楽しくプレーすることが出来ました。

右も左もわからないまま活動を始めましたが、役員の皆様と実行委員会の皆様に助けてもらいながら計画し、事業に参加していただいた会員の皆様のご協力のおかげで一年間無事に活動を終えることができました。皆様本当にありがとうございました。

◆卒業生追出しゴルフコンペ

四月二十五日(土)長岡カントリー倶楽部にて、卒業生追出しゴルフコンペを行いました。今回はコンペ二名・表彰式より出席二名と計四名の卒業生に参加していただき、ゴルフコンペと表彰式を通じて例年に無いほどの盛り上がりで、

卒業生の方々に素晴らしい思い出作りと、今までの恩返しが出来た一日でした。

参加者 三十名 (春山 博)

◆リフレッシュイベント

七月十一日(土)長岡遊ボウルにてリフレッシュイベントを行いました。今年度は中越鋳物青年研究会様との合同親睦会としてボーリング大会を開催し、終了後には懇親会を行いました。

昼過ぎからの参加にもかかわらず鉄工青研より二十一名、中越鋳物青年研究会様より八名と多数参加していただきありがとうございます。短い時間ではありましたが両青研楽しんでリフレッシュしていただけではないでしょうか。中越鋳物青年研究会の方々ともより一層親睦を深められたと思います。

参加者 二十一名 (真保 哲行)

◆屑鉄集め

九月二日(水)にボランティア事業として屑鉄集めを実施しました。青研参加者三十四名、協力企業様三十二社にて行いましたが、今年も事故・怪我等は無く、また各班の終了時間に大きな差も無く全員集まって作業終了することができました。青研外企業の方々からもご寄付をいただき、(株)横山銅鉄店様のご協力を得て換金させていただきました。

今年は大不況の最中にも拘らず六八七、二七二円を集めることができました。これも屑鉄集めにご理解、ご協力を頂いた協力企業様及び回収作業を行って



いただいた青研会員の皆様のおかげです。この善意の賜物は長岡市内の各福祉施設へクリスマスプレゼントという形で寄贈させていただきました。十二月二十二日に鉄工青研役員の中から六名が代表し目録の贈呈に行きました。各福祉施設より贈呈式を行っていただきましたが子供達とふれあい、遊んだり歌ったりと子供達はとても楽しんでる様子でした。なお残金は屑鉄基金のほうにまとめて、今後の福祉目的の為に蓄えとさせていただきます。このボランティア事業を継続して活動できるように、来年度以降も皆様のご参加とご協力をお願いしたいと思います。

収入 六八七、二七二円

内訳

柿が丘学園様 一八六、六〇〇円

もみの木工房様 一九八、六八〇円

双葉寮様 一九九、九七〇円

屑鉄基金への貯蓄 一〇二、〇三三円

参加者 三十四名 (安井 浩二)

◆鉄工青研OBとの交流ゴルフコンペ

十月十日(土)に鉄工青研OBとの交流ゴルフコンペを行いました。当日はあいにくの雨でしたが、OB会員と共にゴルフをプレーする事で交流を深められたと思います。懇親会においてはゴルフ参加者以外の会員も二名の出席がありゴルフ参加者以外でも交流を深め楽しんで頂けたと思います。

参加者 二十八名 (春山 博)

お祭り委員会

委員長 安田 英生

◆長岡祭り前夜祭神輿渡御

平成二十一年八月一日(土)長岡祭り

前夜祭会場にて、宵宮神輿渡御を行いました。第十六年目となる神輿渡御は、総勢百二十名が集い。参加者一丸となつて神輿を担ぎ、晴々しく盛大に、大興奮の渦の中、和一緒の歓喜歓声と共に終了致しました。三年目となる纏演舞にも

力を入れ、纏の配置構成や練習に心血を注ぎ、磨き上げた神輿と共に腕を上げた纏衆の三振りの演舞が、一体感のある神輿渡御を際立たせました。後日、青研神輿と青研纏が、各新聞テレビ等に大きく掲載、報道され長岡鉄工業と鉄工青研のアピールが少なからず出来たのではないかと思います。

祭り当日は天候にも恵まれ、何事もなく無事に終えることが出来た事は、御協力いただきました皆様と、参加していただいた皆様のおかげと感謝いたしております。

合わせまして、青研OB、関係者の皆様より御寄附頂きました協賛金により、神輿の研磨、塗装、軽量化を図り、纏の振りに改造を施しました。大変厳しい経済状況が続く中この度の神輿渡御に際し、例年と変わらぬご支援いただきました事、また当日足をお運びくださいました皆様方のお心づくしや励ましのお言葉に厚く御礼申し上げます。来年も長岡祭り神輿



ものづくり委員会

委員長 真島 洋紀

渡御実施につきまして、特段の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「十年くれ。」……父と契りを交わし、名古屋でメーカー勤務をしていた私が、父の死去のため、六年で予定を繰り上げて退職し、家業に入って三年目、誠に僥倖ながら、ものづくり委員長という大役を務めさせて頂きました。何より一昨年の臨時総会で「新入会員の挨拶」で登壇した者が、翌年の臨時総会で「委員長就任の挨拶」で登壇したという事実が、「僥倖つぶり」を見事に表現していたかと思えます。

「準備の年」と位置付けた今年度、当委員会は、人材育成事業として「ものづくり体験教室」を、ものづくり事業として「セミナー」「見学会」「講習会」を各一回、合計四つの行事を開催致しました。今年度のものづくり事業は「事業換え」を伴うもので、「己は産業人」という足元を見直し、固めるべく、いわゆる「産官学」の「産」に徹底的にこだわった事業を行いました。そのため、準備段階で世間が我々ものづくり業界人に要求している知識レベルと、我々が理解しやすい内容・難易度の「バランス」について非常に悩み、上半期に一度も行事を開催出来ず、役員会の席上で何度も「まとまりのないご相談」をしたこともありましたが、既存品で妥当なものはないと決断し、ヤマザキマザック様と県工業技術総合研究所様へ「完全オーダーメイド」発注致しました。形に残る物ではありませんが、セミナーという無形の「ものづくり」を体験させて頂き、大変貴重な経験をさせ

て頂いたことを、有り難く感謝しております。

一方、解決できなかった問題が多々残ったことも忘れてはなりません。「ものづくり体験教室」については「従来通り会員家族の子供達だけで本当に良いのか?」「中高生は?」「地域貢献とは?」「人材育成とは?」まだまだ変えられるポイントは何山のようにあります。

また「セミナー」については、
・全会員が欲する内容だったか?
・平日開催では全員参加が不可能

この二点は「永遠の課題」だと考えております。なので、その点は、年頭に事業計画案に掲げた方針、「皆、互いが互いの先生である」の精神で、参加した方は是非、配布資料は捨てることなく大切に保管し、参加出来なかった仲間に見せてあげ、教えてあげて下さい。

委員長を経験させて頂き、さまざまな苦労を実感し、多くのことを学び、「青研事業に積極的に取り組むことの大切さ」を知ることが出来ました。これを忘れることなく、来年度も引き続き、積極的な活動をしていきたいと思っています。一年間、有難うございました。

◆青研ものづくり体験教室

【日時】平成二十一年九月二十七日(日)
【場所】国営越後丘陵公園

今年の工作教室は青研メンバーの家族と、その知人のみを対象に行いました。



午前は飛行機キットや知育玩具「デルタックス」、キーホルダーの工作を行い、昼食には火おこし体験をし、バーベキューを楽しみました。

午後からは午前中のキットを使い青空の下で親子共々遊びました。

天候もよく充実した一日になったことだと思います。携帯ゲームなしでも子供達が満足している様子を見ることができて嬉しく思います。来年以降も続けて欲しいと思います。

参加者 六十一名

(大宮 丈範・田中 智也)

◆製品づくり・有効活用セミナー

【日時】平成二十一年十二月十日(木)
【場所】長岡鉄工団地協同組合 事務所

今回のセミナーでは、ヤマザキマザックオプトニクス(株)様・ヤマザキマザックシステムセーブルス(株)様から講義をしていただきました。

「レーザー加工機開発秘話」「発想の転換」をテーマに、紀藤智洋様・大鹿真裕様に講師をお願いし、お話をしていたいただきました。

納期の短縮、コストダウンという動機から匠フレームというベットの铸件から板金へ置き換えるというところまで行き着いたお話は、非常に興味深いお話でした。我々がいかに、柔軟な頭で的確な発想をするか、見習うべき箇所多数でした。

参加者 十七名 (高坂 隆一)

◆技術課題解決セミナー①見学会

【日時】平成二十二年一月二十九日(金)
【場所】新潟県工業技術総合研究所

中越技術支援センター・ナノテク研究センター

中越技術支援センターの活用例、及びさまざまな設備をわかりやすく説明して頂きました。

導入コストと利用頻度からすると我々中小企業では、導入出来ない設備がすぐそこ(市内)にあり、しかもその設備

を安価で利用出来ることがわかり、大変有効な説明・見学会でありました。

機会があればぜひ利用したいと思っています。

参加者 十三名 (若月 孝裕)



◆技術課題解決セミナー②機器操作講習会

【日時】平成二十二年三月五日(金)
【場所】新潟県工業技術総合研究所

見学会での説明の理解を更に深めるため、三次元測定器と走査型電子顕微鏡(元素分析装置付)を実際に操作出来るよう、講習をして頂きました。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、「百見も一体験に如かず」でした。恐る恐る三次元測定器を操作し、たった一か所の直角度ですが、持ち込んだ部品の精度が合格と分かった時、大変嬉しい気分でした。

施設内の設備は、時間貸しをして頂けるので、積極的に活用し、今後、有能な職員の皆様とも対話の機会を増やしていきたいながら、家業の発展に結び付けていきたいと思っています。

参加者 七名 (真島 洋紀)

祝ご卒業

相田 勇 (有)相田鉄工所

高梨 之博 (株)高梨鐵工所

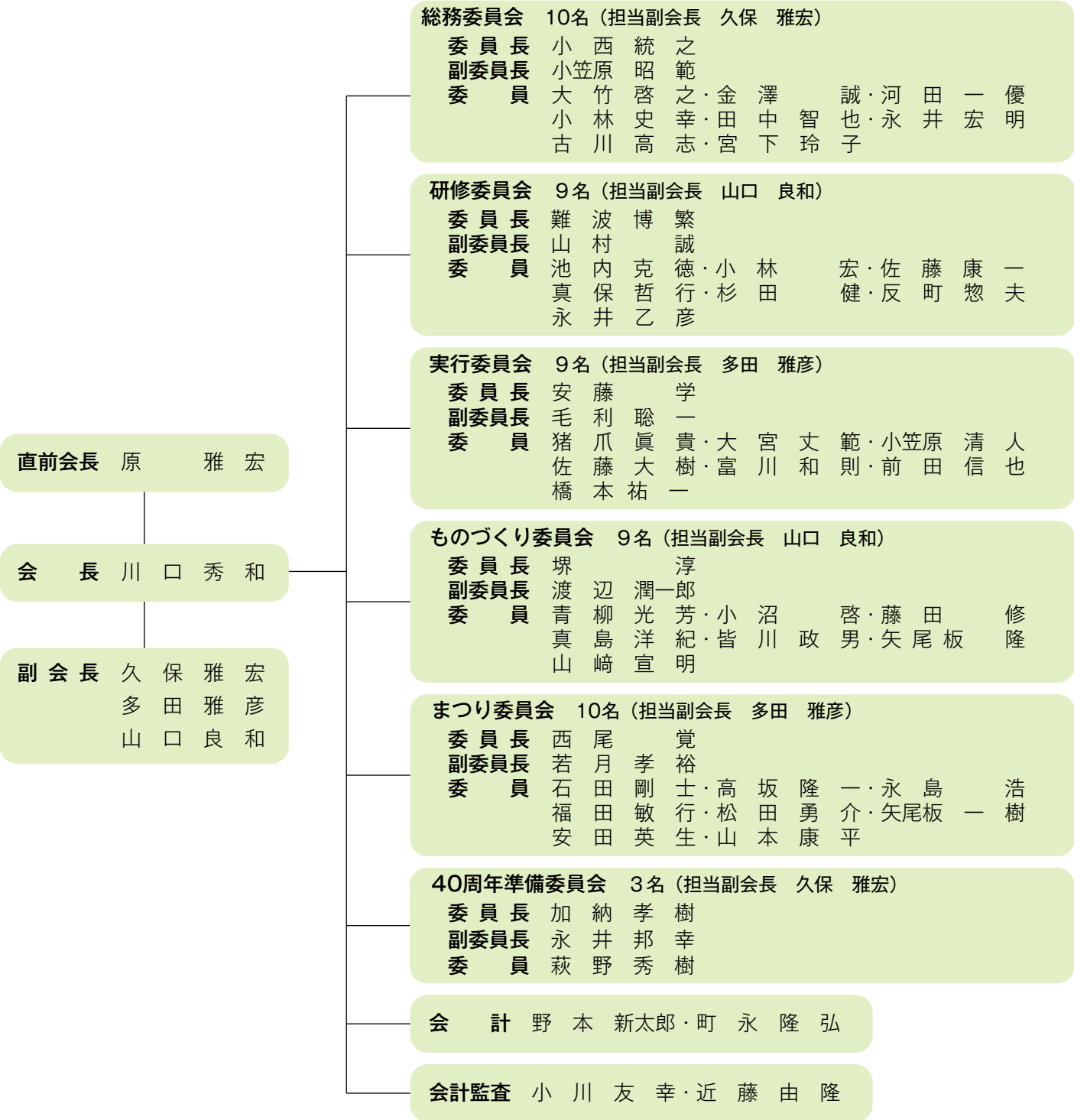
高橋 大輔 (有)シンエー木型工業

春山 博 低粒研磨工業

安井 浩二 (株)オートツ

(以上五名)

平成22年度 長岡鉄工業青年研究会組織図



新入会員の紹介

平成21年度入会
みな がわ まさ お
(株) 皆川 政 男
鉄工町一丁目一〇
TEL 〇二五八二八二二二二
FAX 〇二五八二八二二二三
昭和五十三年六月六日生

平成22年度入会
(平成二十二年四月一日現在)
かわ かわ
(有) 河田 一 優
宝三工業
TEL 〇二五八二四一八五〇〇
FAX 〇二五八二四二四八六
昭和四十九年二月二十六日生

ふく ぶく
(株) 福田 敏 行
宮下町字榎町四〇一七
TEL 〇二五八二四二七三五
FAX 〇二五八二四二八八八
昭和五十四年六月二十七日生

まえ まえ
(株) 前田 信 也
青葉台二丁目二四
TEL 〇二五八四七〇九七二
FAX 〇二五八四七〇九七二
昭和四十八年六月六日生

みや みや
(株) 宮下 玲 子
宮下町四二〇一五
TEL 〇二五八二四一六八一六
FAX 〇二五八二四一六六九
昭和五十二年四月四日生

やま やま
山崎 宣 明
長岡スプリング(株)
北園町二〇九一六
TEL 〇二五八二四一六八二二
FAX 〇二五八二四一三六四五
昭和五十五年十月二十一日生